

彩の合気

最新
機関紙

埼玉県合気道連盟機関紙NO. 9

さらなる飛躍の年に！

連盟理事長 川路 昌治



昨年は、年始早々吉祥丸前道主の入神といった衝撃的で悲痛なお知らせをしなければなりません。紀元2千年、喪が明け会員各位、真に新年を祝う年になったことと拝察します。

この1年、連盟は着実な地歩を固めてまいりました。7月猛暑の中の合同講習会、過去最多の217名参加で、文字通り熱気に満ちたものでした。

また、少年錬成会も10団体128名参加の下、元氣一杯の子供達の姿が印象的でした。

これも、連盟傘下各団体の御協力と普段の旺盛な活動の賜れと、こころより感謝し敬意を表するものです。

さて、連盟のさらなる飛躍に向けての第一義的課題は加盟の促進です。現在、合気会本部道場所属の支部・道場は県下広範囲に亘って、約50余存在します。事務局が努め努力しているところでございますが、各団体の事情もあり、進捗状況が思わしくありません。

皆様方の御協力を得て、一層裾野の広い連盟を目指す所存でございます。また、その為には、益々充実した連盟の活動がなければなりません。各団体の豊かで独創的な取り組みを結集して頂ければと、切望します。

今世紀最後の年を実り多いものにし、来たる21世紀に向けて、確実な一歩を踏み出そうではありませんか。各団体の御活躍をこころより祈念します。

加盟団体の動向

◎新生「深谷合気会」の誕生

——「深谷合気道クラブ」発展的名称変更

平成11年10月吉日、旧深谷合気道クラブより、大変慶ばしい便りが届きました。

既に周知の会員もあろうかと思いますが、改めて当機関紙を通じて、御報告し慶びを分かちあいたいと思います。上記の通り、会名を深谷合気道クラブより、深谷合気会と変更になりました。この変更は、固より当会の発展を示すもので、連盟といたしまして心強い限りです。平成5年、20人足らずで発足した会は、本橋幸夫会長の指導の下、現下50人を超える大所帯に発展し、連盟の活動にも積極的に参加していただいております。「合気道の普及発展に努力していく所存であります」と本橋会長は、力強く表明されています。「深谷合気会」に啓発され、互いの発展を誓い合うではありませんか。

◎吾妻正義氏 自然館二代目館長に就任

昨年6月14日、当連盟の常任理事として、その発点到多大な功績を残された故吾妻久朝前館長が亡くなられたことは、当連盟にとって、前道主の訃報に次ぐ悲しみでした。

しかし、ご子息正義様は深い悲しみを乗り越えられ8月、2代目館長に就任されました。就任通知の一部で「はなはだ身の引き締まる思いであります。

今後合気道と学習塾を通じ、子供たちの素直な心を養い、この10年間に父の築き上げた実績を決して無にする事のないよう、全力を尽くして自然館の発展に邁進する所存であります。

“われ以外、皆わが師”とは生前父が常々口にしておりました言葉ですが、私もその気持ちを忘れず、常に向上心をもって「進まれることを、決意されています。今後の発展をこころより祈念いたします。

県連新年会開かる :平成12年1月23日

—— 盛大に新たな決意

去る1月23日(日)、和光市「養老の滝」において、7支部・道場11名参加のもと、県連理事会主催新年会が開催されました。

川路理事長の「皆さんの御協力あつての連盟、今年もさらなる発展の為に宜しく」の挨拶に始まり、向笠常任理事(和光支部)の乾杯の後、合同講習会後の各支部・道場のその後の活動について、交流し合いました。

入間市の武道大会に参加し、他武道との交流を持った入間幸武館・関戸師範の活き活きとした話。また寒中稽古を実施した、久喜合気道同好会川合会長の報告。大宮道場市塚会長の海外合宿の羨ましい話に、皆、目を傾けました。

その後、予定時刻を超過すること1時間半余、会は際限のないものとなりました。御列席の皆様、有り難うございました。(文責:松橋)

県連予定

- ◎第15回県連少年部錬成会(理事会を予定)
日時:平成12年4月16日(日)午後2時~
場所:(未定)
- ◎第18回県連合同講習会(指導:道主)
日時:平成12年7月2日(日)午後2時~
場所:桶川市総合体育館サンアリーナ
- ◎常任理事会(3/5日) 和光市「養老の滝」

各団体・演武会特集 (平成11年度)

合気道自然館 吾妻 正義

—— 合気道自然館10周年・故吾妻久朝館長
追悼演武大会

自然館は、平成元年4月に故吾妻久朝館長によって開設され、昨年は節目の10周年を迎えました。残念ながら6月に前館長が急逝いたしましたので、11月13日に、10周年と併せまして前館長の追悼演武大会を、本部道場師範・磯山博八段をお迎えして開催致しました。その際、皆様には御丁寧な御祝辞と多大な御芳志を頂戴致しまして、心から厚く御礼申し上げます。

大会は、先ず私の館長就任挨拶に始まり、続いて磯山師範から、「今日は日頃の習練の成果を、天国にいる館長へ届けて欲しい」と御祝辞を頂きました。演武は、自然館の少年演武に始まり、一般演武、そして狭山市合気道教室、入間幸武館、入間基地合気道部、甲府支部、藤代支部の賛助演武と続き、最後は磯山師範による、ユーモアと迫力あふれる説明演武が行われました。

引き続き行った懇親会では、前館長を偲ぶビデオが上映されました。スクリーンに前館長の姿が映し出された時、1年ぶりにその声を聞く者もあり、会場の誰もが涙を禁じませんでした。しかし、その後は館長を懐かしみ、様々な思い出話を花を咲かせ、涙あり、笑いあいの懇親会となりました。

お陰様で、最後まで和やかな雰囲気の中で、盛況裡に大会を終了することができ、希望に満ちた再出発をすることができました。これも偏に皆様の御支援御厚情の賜物と深く感謝しております。前館長はこの10周年を心から楽しみにしておりましたが、きっと喜んで見てくれたことでしょう。前館長と共に重ねて厚く御礼申し上げます。

前館長が逝った時、私を支え、励ましてくれたのは、やはり合気道の同友の方々でした。私はあの時ほど「合気道をやっていて良かったな」と感じたことはありません。(館長演武 受け吾妻正義)



私はこれからも、合気道を通じて知り合えた、このような温かい人と人との“輪”を大切に、「人間感謝の気持ちを忘れたらおしまいなんだ」と常々口にしてきた館長の言葉をしっかりと胸に抱いて、合気道の素晴らしさを一人でも多くの人に伝えていきたいと考えています。皆様には今後とも一層の御指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

合気道川越道場 中川 紳一郎

—— 平成11年度演武会レポート

去る9月26日、川越市城南中学校武道場にて、恒例の川越道場演武大会が今年も開催された。

この演武大会は、我々川越道場が主催し、島田五郎道場長と親交のある道場に参加を頂いて、互いに親睦を深めるという趣旨で、毎年行っているものである。

従って、内容は至って地味であり、派手な宣伝等も行っていない。道場長自身も、「ウチの演武会は直会がメインです」、とされている。実際、料理は手作りのものを早朝から準備するのだ。

とは言え、演武会をおろそかにしてよい、ということでは決してないので、主催者側としてはなかなか大変なのである。

さて、演武会は、当道場渡辺師範、島田道場長の挨拶で始まり、各道場の演武となる。先ずは、我々川越道場から、少年部稽古演武、白帯は基本技、有段者が個人演武を行った。普段の稽古にあまり顔を出さない方(サボっている訳ではない)も演武となれば流石である。

続いて狭山ヶ丘高校合気道部、全員が白帯である。受験勉強が相当忙しいらしい。次なるは、埼玉県庁合気道部、こちらは島田道場長が在職中に創設された団体である。皆様高いポストに就いておられて稽古の時間もなかなか作れないという事だ。

次に深谷合気会、産経学園、大成合気道会、北区合気会と演武が続いた。北区合気会の演武では、川越道場設立に携わった、飯田師範も演武を披露された。道場演武の最後は、大塚道場明道館である。こちらは個性的な師範が揃っており、太刀取り・杖・抜刀技・組太刀等、多彩な演武を見せて頂いた。

最後は、川越道場長・島田五郎師範の渾身の呼吸投げ、ただ2本で演武を締め括った。師範曰く、「冷えたビールが来る時間に合わせた」との事である。

この様な次第で、直会では皆、冷えたビールと手作り料理に舌鼓を打ったのであります。

来年は、我等が川越道場も創立30周年を迎える事となるので、また新たな気持ちで稽古に精進し、例年より少し華やかな演武大会になるかと存じますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

(雑誌「秘伝」に掲載。平成11年12月号再収録)

合気道建武館

須野原 勝

— 設立15周年演武大会

去る9月19日、素晴らしい晴天に恵まれ、設立15周年記念演武大会が開催されました。

まず、主催者挨拶(須野原)で道場に対する協力への感謝と、演武会は通過点であり出発点でもあると、今後への精進を呼びかけました。

次いで、来賓の神川町の田村町長は、武道に対する青少年の健全育成を期待され、吉竹教育長は道場に掲示されていた「五つの心」を礎と共通する人間育成である、大いに期待する旨の祝辞を頂きました。

そして、渡邊本部道場師範から、子供たちへ「元気に大きく演武するように!」と激励を頂きました。また、埼玉県合気道連盟・川路理事長は「大きな武道館は沢山ありますが、しかし、どこにもない雰囲気を感じ出すこの素晴らしい道場で、稽古できることは、羨ましいと思います」と励ましの祝辞を頂きました。

演武会は、少年部の稽古風景の準備運動、基本動作から始まり、館主演武・少年部演武・母と子の演武・兄弟演武・姉妹演武・親子演武を織り交ぜ、高校生演武・練成大会出場代表者演武・招待演武・基本技・応用技、そして、渡邊合気道本部道場師範による総括演武が行われました。

招待演武は、越谷市合気道連盟・合気道利光支部・合気道寄居ファミリークラブ・独協大学合気道部に華を添えて頂きました。

招待演武や総括演武では、その迫力に圧倒されて子供たちは「スゲー!」の連続でした。「アンナ風にやりたい、できるようになりたい」と言う子供たちの為に大いに刺激になり、大成功だったと思います。

第4刊となった「愛気録」は、今回経費節減で愛気録編集委員会を結成し、5名でタイプアウトし、製本だけを依頼しました。時間的に余裕がなく正誤表が1ページにもなってしまいましたが、75点位の出来具合で、次期に期待したいと張り切っているところです。

(本部道場渡邊師範の演武)



浦和合気会

萩原勇一郎

— 28周年演武会開催

平成11年10月24日(日)、秋晴の中、埼玉県立武道館で、午後1時30分より、浦和合気会28周年目の演武会を開催しました。

演武会参加者は、有段者16名、有級者1名、初心者4名、計21名と大宮道場より数名の方々に参加して頂きました。

開会の後、真剣目つ緊張感のある会にする為、「心・技・体」の充実した6段演武よりスタートしました。次々と有級・有段者の演武を行い、途中、武器取りを交えながら色々な組合せで、日頃稽古している成果を会員各自が様々な思考をこらした活気ある演武を行いました。

近隣の大宮道場より数名の方々に参加していただくことで、より一層盛況になりました。また、埼玉県合気道連盟常任理事であり、大宮道場の藤田副会長の力強く迫力のある演武を披露して頂き、会員一同今後の演武並びに稽古などの参考になったと思います。

最後に、埼玉県合気道連盟副会長であり、当会の林会長より円熟味のある演武で、この会を締めくくり閉会しました。

演武会終了後、会員相互の懇親を深める目的で当会の六段による、懇親稽古を行い、演武会とはまた違った良い汗を流しました。

場所を変え、懇親会を午後5時より行い、演武会の事や合気道談義で盛り上がり、数時間が瞬く間に過ぎ話が尽きぬところでありましたが、時間の関係上、散会しました。

今回の会の様子や進行状況を反省し、また他道場の演武会などを今後の参考にし、平成13年度に行われる予定の「浦和合気会30周年記念演武会」に向けて準備して行きたいと思います。



合気道和光支部 永井 亜希子

— 28回目だったんだ —

和光支部の自称「アイドル」ナ・ガイです。みなさま、その節は、ありがとうございました。ホント。賛助演武をして下さった方のこと、誰がダレヤラ、まったく存じ上げておりませんが、私は心から感謝申し上げております。ハイ。

エートオ、今回和光支部を代表して、演武会の感想を書けなどと、県連事務局長の松橋さんから言われてまして、何を書いたらいいのだろうと思いつつ、書き始めているのでございます。

そうですね、まず、和光支部の演武会が28回目であったことに、スゴイと思いました。何せ、私の年よりはるかに多いのですから(ワフッ)。

て、これは川路先生は、一体何才からここで合気道をはじめ、当年いくつナノダ。

とにかく、スルト、まて、私が生まれる前から合気道をここでやっていたのか。ナンデ。いやはや、やはり、ただ者ではないのだ。

ワタシ、入った時から、自分で何時やめるのかな、そう思っていました。でも、ふしぎ不思議まーだ続いているんですから。とすると、ワタシと合気道が何か結びついているんだ。そうなのだ。

マジで今、考えようとしている私。

みなさま、チョット待って下さい。フーム。そうか、いや違う。で、よく解らん。この答えは次回までに、考えることにしよう。

眠くなってきた、そうだ、和光支部の演武会の様子を最後に語るのであったのだ。

子供がやたら多いのです、47名とか。少年部の演武だけで、1時間半はかかる。でも、みんな良い子なのだ。大人23名。演武の時70名全員に、一言コメントする川路先生、スゴイ。

賛助演武の方は、30名ぐらいでした。とするとナント100名もの方が演武していたんだ。和光支部って、スゴイかも。

この中で、私の演武なんて誰も覚えていないだろうな。今年は、和光支部の永井亜希子を見せつけてやるのだ。みなさんも頑張ってください。

(財) 合気会 今年の主な行事

- 4月26日(水) 開祖御命日慰び会(本部道場)
- 4月29日(土) 合気神社大祭(岩間)
- 5月27日(土) 第38回全日本演武大会
- 8月 7日(月) 全日本少年合気道錬成大会

投稿 和光支部・松橋忠美

— 学校崩壊・合気道部、今高校は —

某都立高校に赴任して丸9年、赴任した翌年に合気道部を設立。それは、自分の夢でもあり、散えて臨んださかやな自分への挑戦でもあった。39歳やはり若かった。今の自分、嘗てのような夢や挑戦への潜在的エネルギーがあるだろうか。ある種の悲観、諦めが先行しそうだ。想えば、職員の同意をへ設立に乗り出した頃、校舎一番奥の武道場で、やはり合気道を修行する同僚と二人連日デモンストレーションを兼ねた稽古を重ねていた。

ギャラリーから見下ろす者、誰彼かまわず、甘言を弄し、稽古に巻き込み、強引に部員にし。同好会の誕生。翌年、新入生を部員と共に拉致し、2年目部に昇格。その年に、文化祭のイベントの一つとして演武会を実施しはじめ、昨年7回目を終えた。

思わぬ苦難の道はそこから始まった。3年目から、私の合気道に対する思いと、彼らの意欲が噛み合わない。武道でありながら、試合がない。稽古の原則は「争って争わない、和の精神」血気盛んな青年にとって、何を目標にすればよいのやら。未熟な指導者である私に明解な答えなど与えらる筈もなし。

また、この頃から、合気道部に限らず2年生部員が退部するのが目立ちはじめた。理由の中で占める割合はアルバイトが圧倒的、次いで異性と関係(遊びが優先)。

恵まれた体力・運動能力がありながら、クラブ活動に背を向ける者が多いと実感し始めた。それから瞬く間に、生活指導上、茶髪・ピアスが広がり、職員の間で指導が求められることになった。また、ここ1・2年携帯電話PHSの普及振りは、如何ともしがたい。まさに、お手あげなのだ。月数万円もの使用料を払う者もいるとか。アルバイトが必至となる訳だ。

こうした状況をマスコミでは、学校崩壊とことさらに危機感を煽っている。教師の中にも、自らの働き場が崩壊したと告発し、その著作が何万部も売れている。

果たして、大人は子供をはやりの価値観で決めつけてよいのだろうか。昨年、我が合気道部にとって、幸運な転機が訪れた。新入生8名、ほとんど休む事なく稽古を続けている。日毎成長が窺える。「今の若い者は」ピラミッドの中に刻まれていた文字だ。悲観することより、現実にはプラス思考で立ち向かいたいものだ。

(第27回和光支部演武大会)

